を提供するものがなかったという。その時、進んで現在の駅の敷地を無償で提供したのが豪農笹屋こと伊藤儀兵衛であった。ところが、笹屋は二度の大火に遭い、また経済事情の変遷もあって打撃を受け、往年の繁栄は夢物語となったが、伊藤の花巻に尽くした功績は、忘れることのできないものがある。

と解説していた。そうか、伊藤は私財を擲って花巻の発展のために尽力した人だったのだということを知り、その後、四日町の先人伊藤儀兵衛を私は誇りに思うようになった。

地区だより

地域のつながり

浅沢町内会 会長　草木幸子

私が町内会長をお引き受けして、もうじき一年になります。会長となる以前から民生委員のお役を頂いておりました。民生委員として地域の方々と顔を合わせ、お話をしている中で、防災に対する危機意識が会長の役も引き受けるきっかけとなりました。

大雨特別警報が発令された時の事です。避難の連絡が町内会から入りましたので見守り訪問をしている方々に連絡をとりました。しかし現状を知る事で精一杯。電話は、いざ・まさかの時こそつながらない事もあることを知りました。支援を求めて手を挙げている方々はそれぞれ一人での避難は難しく、町内の高齢化が進む中で、町内会、近隣住民の方々の協力無しでは支援を要する方々の避難誘導は難しいと痛感いたしました。支援を要する方がどういう状況にあるのかを知っていないと、地域のつながりが希薄になりつつある現状では、実際有事に直面した際に適切な行動がとれないと思い、役員会の中で声を出して問題を共有したい、地域のつながりを深めたい、そう思った次第です。

この一年を振り返りますとコロナ禍の為、防災訓練はできず残念でしたが、互いに誰がどういう動きと任務にあたるのかが想定できるようになりました。班の中には避難行動時、応援を必要とされている方がおられる事も、幹事さん方にお伝えしました。浅沢自主防災の仕組みが町民全体に浸透し、防災への関心が高まるよう皆で働き続けていきたいと考えます。

地域をみると行事はコロナ禍で自粛を強いられ世代をこえた行事が無くなった事で元気をなくしていると感じます。同じ地域に住む者同士、暖かい声を掛け合い励まし合える手だてはないものだろうかと常々思っていたのですが、そんな願いが小さな形で実現しました。「サロンお茶の間」の立ち上げです。町内に同じ思いを抱いている方がおられ、気負わず一人でも公民館に来て下さる方がいるのであればとの思いで昨年夏より、たくさんの協力のもと毎月開催できております。町内会の報告もできる交流の場、お茶の間がどんな風に育ってゆくのか期待は大きくなるばかりです。

令和３年度の防災訓練説明会

区長の一人言

四日町三丁目 区長　鎌田愼一

四日町に生を受け今年で73才になります。生まれ育ったこの地区に何かしら役に立ちたいと思い８年前に今は亡き小原敏夫さんから引き継ぎました。区長の役目は住民と市のパイプ役と広報の配布です。月２回の広報はアパートの階段の昇降が体に効くように成りました。区長になってどんな人達が町内に暮らしているのか分かろうと思い65才以上の方々に声をかけ「三丁目を良くする会」と称して酒飲み会を企画し毎回35～40人の賛同を頂き親睦を図ってきましたが、現在はコロナの関係で途切れております。

又、８年前は桜台小学校から不審者メールが再三入ったものでした。自分の孫も２年生だったのでこれは何とかしなくてはと思い、「新亀屋」「まっちゃん」と７人の協力を頂き「三丁目見守り隊」を結成し不審者と交通災害から守っています。という建前ですが本音